



— 原子力技術基礎基盤 / 安全技術基礎基盤課題コース —

## Mr. WANG Yadong

中国輻射防護研究院 (CIRP) / 中国

研究テーマ：放射線防護の最適化とその手法に関する研究  
受入機関：東京大学

招聘期間：2019年9月9日～2020年2月14日

研究者育成事業（原子力研究交流制度）に参加できたことは大変光栄なことでした。日本で研究し、生活した経験は大切な思い出になるとともに、私の将来に役立つことでしょう。

私は飯本先生の研究室で、主に、空気中の<sup>222</sup>Rn濃度の連続測定を行いました。飯本先生のご指導の下、最初に<sup>222</sup>Rnやその測定に関する知識を学び、研究室のメンバーと一緒に実験を行いました。この過程で、実験計画の立て方や、問題に直面した時にどう対処するかについて、技能を高めました。さらに、数多くの施設（日本原子力研究開発機構、量子科学技術研究開発機構、自然科学研究機構核融合科学研究所、近畿大学、京都大学複合原子力科学研究所等）を訪問し、12月4～7日に東北大学で開催された第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会に参加して口頭発表とポスター発表を行いました。このような研究活動を通じて得た知見と経験はすべて将来の私の研究に役立つことでしょう。

日本での生活は素晴らしく、快適でした。おいしい食べ物や、魅力的で美しい自然、住みよい環境を満喫しました。温かいご支援をいただいた飯本先生研究室の皆さまに心から感謝申し上げます。



— 原子力技術基礎基盤 / 安全技術基礎基盤課題コース —

## Mr. ZAHARI Ahmad Khairulikram

マレーシア原子力庁 / マレーシア

研究テーマ：放射性廃棄物管理  
受入機関：福井大学附属国際原子力工学研究所（RINE）  
招聘期間：2019年9月2日～2019年11月22日

私は、柳原先生と川崎先生のご指導の下、放射性廃棄物管理について研究活動を行いました。

私が放射性廃棄物管理に関する研究に興味を持ったのは、母国のマレーシアに高レベル放射性廃棄物処分に關する専門知識が欠けていることから始まりました。マレーシアには原子力発電所がありません。放射性廃棄物は通常、医療用や産業用に使われた使用済線源で、高レベルの放射性廃棄物はほとんどありません。

研究活動を通じて、高レベル放射性廃棄物処分のための多重バリアシステム設計と、その設計理由について学びました。日本で2000年に公表された「わが国における高レベル放射性廃棄物地層処分の技術的信頼性 - 地層処分研究開発第2次とりまとめ - 報告書」には、地層処分を目的とした基礎研究についてまとめられています。本報告書では、人工バリアの安全機能に影響を及ぼす可能性があるすべてのシナリオが検討されています。この報告書は、同じような計画を始めたといえる国々にとって、出発点としてとても有用なものです。

人工バリアの性能は通常、核種の拡散フラックスと各バリア内の滞留時間により評価されます。私は、処分概念の基本原則をつかむため、これらすべてについて、モデリングソフトウェアを使わずに数値計算しました。私はいくつもの理由から、RINEで研究活動を行うことができてとても幸運でした。RINEの皆さまはとても気さくでにこやかで、英語で活発に交流できました。そして何よりも、指導教官の先生方はいつも親身になって気を配ってくださいました。



— 原子力技術基礎基盤 / 安全技術基礎基盤課題コース —

## Ms. TSEDENBAL Todgerel

中央獣医衛生ラボラトリー / モンゴル

研究テーマ：放射線安全 / 放射線防護  
受入機関：福井大学附属国際原子力工学研究所（RINE）  
招聘期間：2019年9月2日～2019年11月22日

このプログラムに参加できたことを言葉にできないくらい感謝しております。このような機会をいただきありがとうございました。

私は環境放射線に関して研究活動を行いました。研究期間の前半は、自国のモンゴルで測定した空気線量率と日本で測定したデータを比較するため、敦賀市及び立山を地点に選び、空間線量率を測定しました。後半は、NaIシンチレーション検出器やSrI2シンチレーション検出器を用いて、環境試料（海藻粉末や土壌）の測定を行いました。また、2種のシンチレーション検出器のエネルギー分解能や検出効率を比較し、それぞれの長所・短所について学びました。そして、研究活動の最後には、空間線量率が高い地点と低い地点で採取した土壌試料を比較する実験を行いました。

研究期間中には、RINEの経験豊富な教授陣が行う一連の講義を受ける機会もいただきました。講義は東京電力福島第一原子力発電所事故、放射線生物学、放射線防護、放射線加工等、いくつかのトピックや日本の状況に関するものでした。さらに、福井県原子力環境監視センターを見学させていただきました。

私にとって、今回二度目の日本滞在でした。親切で礼儀正しく、時間に正確な日本の方々大好きです。日本での滞在は、私にとって一番記憶に残る時間となりました。

最後に、滞在中に数多くのご支援をくださった泉先生、松尾先生及びRINEの皆さま、研究室の皆さまに感謝申し上げます。このプログラムは、若い研究者が経験や研究能力を向上させるのに有益だと思っています。本プログラムで得た知識と経験は、私が今後モンゴルでの研究活動を向上させるためにとても有用なものとなるでしょう。



— 原子力技術基礎基盤 / 安全技術基礎基盤課題コース —

## Mr. PHAN Trong Phuc

ベトナム原子力研究所（VINATOM） / ベトナム

研究テーマ：放射性廃棄物管理  
受入機関：福井大学附属国際原子力工学研究所（RINE）  
招聘期間：2019年9月2日～2019年11月22日

RINEで研究する機会を与えていただいた文部科学省に感謝申し上げます。私は現在、ベトナムで放射性廃棄物処理におけるゼオライトの研究プロジェクトに携わっており、RINEでの研究活動を通じて、この研究プロジェクトに関連する多くの知識を得ることができました。RINEで過ごした時間はとても楽しいものでした。学生の皆さまはとても親切で、先生方は熱心です。また、毎週行われたグループディスカッションのおかげで私は多くのことを学びました。先生方のご指導の下、私は新しい研究分野を探索しました。やりがいがあり面白かったです。この研究活動で学んだことは、VINATOM原子力技術センター（CNT）で現在行っている研究にとって、特に私自身にとって役立つことでしょう。

もう一つ印象的だったのが、日本の秋から冬へと移り変わる美しい時期を経験したことです。私の故郷は熱帯モンスーン気候の国ですので、このような経験はしたことがありませんでした。

すべての面で私を支援してくださった皆さまに感謝を申し上げます。

